



たけもりの里

—玉宮小学校だより—



NO.2 R5. 5. 17

文責：校長 小宮山 昇

コロナ5類に伴う教育活動

With コロナ? After コロナ? 表記には迷いますが、5月8日よりコロナが5類に移行しました。インフルエンザと同じ扱いになるということです。今年度4月になってから教育活動への制限も緩和されておりましたが、更に制限がなくなり、既に復活した放課後遊びを始め、マスクの個人判断、検温や健康観察カード、消毒、黙食の廃止、ほぼ通常の教育活動再開と、制限された3年間から解放された感じが致します。



子供たちが校庭で元気に遊ぶ場面も増えました。給食の準備も自分たちで行っております(コロナ禍は教師の配膳)。家庭科の調理実習も普通にできるようになりました。

***尚、学校では、今後も適切な換気の確保、手洗い等の手指消毒、咳エチケットの指導の指導を継続して参ります。**

なかよしスキルアップタイム

クラスの友達や全校児童が誰とでもなかよくできるようなコミュニケーションづくりとして、今年度は「なかよしスキルアップタイム」を行っていきます。第1回目は「おはようジャンケン」です。和気あいあいと活動が行われ、とても大きな声であいさつが交わされていました。人との関わりは元気なあいさつから。R5年度、玉宮小では元気なあいさつを目標にしています。家庭でも日常的なあいさつに御協力ください。



子は親の鏡 校長の独り言

「大人は子供の鏡」という言葉はよく聞きます。しかし、「子は親の鏡」って…？
私が教職に就いた頃、その題に魅かれ手に取った本があります。

それは、ドロシー・ロー・ノルト著『子どもが育つ魔法の言葉』です。

当時、書籍のベストセラーにもなり話題になりました。

購入し何度も読み返すほど、私にとっては大切な本でした。

数十年が経ち、今一度読み返してみようと家の中を探しましたが、

残念ながら紛れてしまい見つかりません。

でも、おぼろげながら覚えていた部分がありますので以下に記します。

「ほめてあげれば、子供は、明るい子に育つ
愛してあげれば、子供は、人を愛することを学ぶ
認めてあげれば、子供は、自分が好きになる
見つめてあげれば、子供は、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ」

親が子供にかけ言葉や行為、子供はそのとおりに育つのだということです。
まさに、「子は親の鏡」なのです。

私は、これを「親」としてではなく「教師」と読み替え、心がけてきました。

子供たちを前に考える場面に出くわした時に、

ふと立ち止まり、原点に立ち返るようにしています。